

水土里ネットちば

Chiba Prefectural Federation of Land Improvement Association



2010
AUTUMN

No.289

第16回写真コンテスト 最優秀賞「仲よし友達」

CONTENTS

口絵「地区の活性化に町全体が協働して取り組むシステムづくり！」

森田知事が両総第一揚水機場を視察	1
平成22年文化の日千葉県功労者表彰	2
第33回 全国土地改良大会（長崎大会）開催	3
第1回全国小水力発電サミット in 都留	4
泉幹線水路更新事業推進協議会の設立	6
第16回 美しい農村環境写真コンテスト 表彰式・作品評	7
「水の週間」中学生 水の作文コンクール入賞作品	11
両総土地改良区・山武郡東部土地改良区 統合整備推進協議会を設立	15
「ちば水土里ネット女性の会」活動報告 米粉の普及に向けて	16

地区の活性化に
町全体が
協働して取り組む
システムづくり!

平成21年度から中山間地域総合整備事業 御宿地区がスタートしました

御宿町産業観光課

房総半島の太平洋側に位置する御宿町は沿岸漁業が盛んで、カツオやイカ、イセエビ、アワビが水揚げされ、夏は海水浴客で大いに賑わい、また、年間を通じてサーフィンを楽しむ人が訪れます。

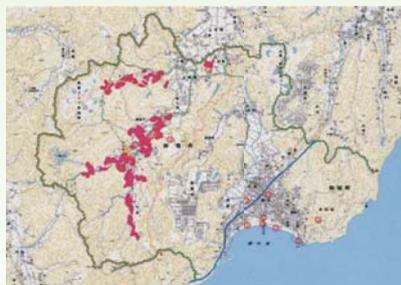
海岸部は南房総国立公園の一角を占め、観光地としての整備が

なされ、マンションが立ち並ぶ一大リゾート地を形成しています。

浜辺には童謡「月の沙漠」に因んでの記念像や月の沙漠記念館が建てられ、1609年に漂着した当時スペイン領メキシコのガレオン船の乗組員317名を救助した縁での記念塔も建っており、更にメキシコ・アカプルコ市との姉妹都市交流も盛んで、御宿町は千葉県でも指折りの観光スポットになっています。

近年、地元民と観光客とが参加交流する各種のイベントが1年を通じて企画されるようになったこともあり、年間200万人以上の観光客が訪れて活況を呈してきました。

一方、町の内陸部ではそれらの恩恵があまり及ぶことなく今日に至っています。



【地区概要】

受益面積: 38.2ha

(田31.1ha 畑7.1ha)

総事業費: 1,117百万円

事業工期: 平成21年度～平成26年度

このため、御宿町では海岸部の活況を内陸部まで引っ張り込んで町全域の活性化につなげようと、種々の取組みに手を付けているところですが、当地区の現況耕地は農道、用排水路共に全く未整備なほ場であるため、満足できる成果が現れていません。因みに平成21年度のデータでは、町の全耕地面積の41%が耕作放棄地となっています。

このような状況を抜本的に改善し、海岸部と内陸部が有機的に相互にリンクして町全体の活性化を実現するために、中山間地域総合整備事業御宿地区が計画

され、平成21年度に地区採択となりました。

農家・農業団体、商工会、観光協会、移り住んできた住民、行政などが協働して観光と農業との融合を積極的に図り、町の発展に結び付けていこうとする御宿地区の挑戦的な試みを、期待を持って見守っていただきたいと思います。



海の幸と山の幸がコラボするイベント「おんじゅく海の花祭り」

森田知事が両総第一揚水機場を視察

千葉県山武農林振興センター

去る8月23日(月)森田千葉県知事が両総第一揚水機場を視察されました。

当日は今年の夏を代表するかのような猛暑日となり、炎天下森田知事は予定された時間を越え熱心な視察となりました。

国営両総用水事業は完了を平成24年度とし、完成まであと3年を予定しておりましたが、平成22年度の国営両総地区予算は対前年度比22.5%の12億4千万円にまで大幅に減額されました。

事業進捗率では87%ではあるものの南部幹線約6km、栗山川統合機場、大須賀川の護岸延伸など重要な施設の整備が未了となっており、両総用水第一揚水機場の改修工事もこれからというときの大幅な削減に県をはじめ地元関係者には青天のへきれきであり、この状況を打開すべく本事業の早期完成を願う両総土地改良区森理事長及び農業土地改良議員連盟の酒井会長や成尾副会長の要請により今回の視察が実現いたしました。

視察当日は、改良区からは森理事長と石橋副理事長、議員連盟からは酒井会長と伊藤幹事長、また、両総用水事業推進協議会会長である志賀東金市長、第一機場の地元である宇井香取市長、県土連から菅谷会長も同席されました。

施設の視察にあたり千葉県山武農林振興センター鈴木所長より両総用水の歴史、事業効果、都市用水との共用施設の更新計画等の説明がされ、また、国営両総農業水利事業所小泉所長より第一揚水機場の特高受変電設備及び第1導水路の更新計画について、千葉県水政課の穴澤副課長より都市用水の取水状況について追加説明がなされた後、機場内の各施設を視察されました。



本揚水機場は、受益面積約18,000haの農業用水と九十九里及び安房地域の水道用水及び東京湾沿岸の工業用水を供給する重要な取水施設であり、万が一用水供給が停止した場合の県民生活への影響は測り知れません。森田知事も更新計画の重要性について当初予定していた時間を大幅に超過して関係者の話に熱心に耳を傾けながら視察されました。



視察中、施設全体を俯瞰するため、ポンプ場から約20m高台にある吐水槽に関係者全員が登り、体感温度で40℃近い炎天下での関係者からの切実な訴えに対し、知事からは「残り3年となつてからの予算の大幅削減は厳しい話ですね。今後とも、あらゆる機会を通じて働きかけをしましょう。今日は大変勉強になりました。」との感想が示されました。

知事視察後の9月24日には「平成22年度経済危機対応・地域活性化予備費」の使用について閣議決定され、県内で実施中の国営事業では、両総地区に13億3千4百万円、北総中央地区に5億9千万円の工事費が追加予算措置されました。

平成22年文化の日千葉県功労者表彰

文化の日にあたり、各方面でそれぞれ顕著な功績を挙げ、千葉県の発展に多大な貢献をされた方々に対し表彰があり、次の方々が「農林水産功労」として表彰されましたので紹介いたします。

ご功労に対し改めて感謝の意を表しますとともに、今後ともますますご健勝でご活躍されますことをお祈り申し上げます。

土谷和夫	元	成田用水土地改良区理事長
鶴岡和幸	現	市原市市西土地改良区理事長
山田一夫	現	安房中央土地改良区理事長

(敬称略)

受賞者の紹介

土谷 和夫氏

平成元年4月から成田用水土地改良区の常務理事に、平成9年4月から平成13年4月までは理事長として、土地改良区の運営及び土地改良事業の推進にご尽力されました。

この間、広域にわたる成田用水の数多くの土地改良事業の推進にご尽力され、特に、困難を極めた県営ほ場整備事業菱田地区を事業完了に導くとともに成田用水事業の53換地地区の完了に貢献されました。

鶴岡 和幸氏

昭和57年4月から市原市市西土地改良区の理事に、平成6年4月から理事長に就任され、土地改良区の運営及び土地改良事業の推進にご尽力されました。

特に、昭和59年に着工した県営かんがい排水事業新堀川地区では連絡協議会会長を務め、乾田化、省力化を目指した排水改良事業の推進にご尽力され早期完成に導きました。

また、平成16年4月千葉土地改良協会の会長に就任され、土地改良区の体制強化と地域農業の振興に寄与されました。

山田 一夫氏

昭和61年、安房中央土地改良区の理事に、平成14年副理事長に、平成20年理事長に就任され、土地改良区の運営及び土地改良事業の推進にご尽力されました。

この間、地域の水資源の確保に重要な役割を果たす安房中央ダムの取水設備等更新事業の推進に取り組み、県営かんがい排水事業安房中央地区の事業化に尽力するとともに、県営ため池等整備事業により老朽ため池の整備を推進するなど、地域農業の発展に寄与されました。

第33回 全国土地改良大会(長崎大会)開催

水土里ネット千葉

「伝えよう水の音・土のぬくもり・里の安らぎ西端の風^{にし}にのせて」を大会のテーマに第33回全国土地改良大会が平成22年10月26日・27日の2日間にわたり長崎県において開催され、本県からの参加者37名は前日の25日に長崎県へと出発しました。

25日は、大会参加に先駆けて、昭和57年の長崎大水害において激甚な氾濫被害を起こした中島川流域の抜本的な治水対策として、現在建設中の本河内低部ダムと既に完了した高部ダムを視察しました。当日は、お忙しい中、長崎県長崎振興局の担当の方々から丁寧な説明を、そして現地にも案内していただきました。



26日開催の今大会は、農業農村整備にかかわる全国の関係者が一堂に集い、より一層連携を深めることを目的として、また、「農業・農村の重要性とそれを支える農業農村整備事業の役割を広く国民にアピールし、21世紀を迎えた農業農村整備事業の展開について認識と決意を新たに『美しく豊かなむらづくり』を目指す。」を目的に開催されました。

土地改良事業功績表彰では、農林水産大臣表彰6名、農林水産省農村振興局長表彰13名、全国土地改良事業団体会長表彰48名が表彰を受け、永年にわたる功績が称えられました。本県では、安房中央土地改良区理事長の山田一夫氏が全国土地改良事業団体連合会長表彰を受賞されました。



受賞を受ける山田理事長

さらに式典では、優良活動事例紹介並びに基調報告があり、大会宣言では、長崎県立農業大学校野菜学科の学生2名より「我が国の『環境』と『資源』を将来にわたって保全、管理、維持していくため、将来を担う若者も積極的に参画し、国民一体となって、『水』『土』『里』を守り、育み、伝えていくことを、日本近代文化のさがりけとなった、ここ長崎の地から全国に向けて宣言します。」と声高らかに宣言が行われました。



翌日の27日には現地視察が行われ、島原深江地区、干拓堤防道路、諫早湾干拓を巡り視察を終了しました。

最後になりましたが、本大会の運営にご尽力されました水土里ネット長崎のスタッフの皆様、並びに県・地元関係者の皆様には大変お世話になりました。参加者一同心よりお礼申しあげます。



第1回 全国小水力発電サミット in 都留

－ 流れる水で地域が輝く－

水土里ネット千葉 技術部

はじめに

10月16、17日、「第1回全国小水力発電サミット」が日本の水力発電発祥の地の一つである山梨県都留市において開催されました。

本サミットは、地球温暖化対策として近年期待が高まっているクリーンエネルギー（太陽光・風力・水力）の一つである水エネルギーを活用した「小水力発電」を全国的にいち早く取り組んだ都留市が、小水力発電を推進する全国の自治体、事業者及び民間活動団体（NGO）と共に、国の省庁（環境省・経済産業省など）の後援を受け「小水力発電サミット」が初開催されました。

サミットは2日間にわたり開催され、全国から約350人が参加、1日目は自治体の事例報告やパネルディスカッションが行われ、2日目は分科会形式で地元高校生の事例発表や市民団体のパネルディスカッションが行われました。

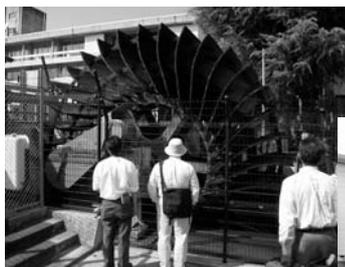
また、閉会式には鳩山前首相が出席し、自身が国連総会で発表した「温室効果ガス25%削減」を達成するには国民一人一人の意識改革が重要であると述べるとともに、小水力発電の普及には煩雑さなどの課題があるため法整備の必要があると述べました。



開会の挨拶をする都留市の小林市長

事例報告

報告④「アクアバレーつる」 山梨県都留市



開放型下掛け水車「元気くん1号」



- 施設名称：「元気くん1号」
- 型 式：開放型下掛け水車
- 製造メーカー：ドイツ・ハイドワット社
- 最大出力：20kW
- 平均流速：0.77m³、(最大2.0m³/s)
- 直 径：6.0m
- アレド幅：2.0m
- 総事業費：約4,300万円
- (NEDO補助金:約1,500万円)
- (市民公募債:約1,700万円)
- (市 費:約1,100万円)

市役所敷地内を流れる川幅3mの家中川（かちゅうかわ）にバイパスを設け、2.0mの落差を利用して発電した電気は市役所本庁舎に供給、休日や夜間等の余剰電力は東京電力（株）に売電をしているとのことでした。また、「元気くん1号」は平成18年4月から本格稼働を開始し、平成21年度末までに21万kWh超を発電し、市役所の電力の約12%を賄っているとのことでした。

この他の事例報告として、山梨県では地球温暖化対策を推進するため「山梨県地球温暖化対策実行計画」を策定し、平成20年度からは「小水力発電開発支援室」を設け、小水力発電マップによる適地の情報提供や小水力発電を実施しようとする市町村への技術支援を行うなどしてさまざまな施策を実施しているとのことでした。

■ パネルディスカッション

テーマ「流れる水で地域が輝く」

パネリストには、主催者である都留市の小林市長のほか、小水力発電のパイオニアともいえる織田史郎氏が創設したイームル工業(株)の沖顧問、茨城大学農学部的小林教授、土地改良からは那須野ヶ原土地改良区連合の星野事務局長が登壇し、コーディネーターには都留市出身でNHKアナウンサーの国井雅比古氏が招かれ、小水力発電を取り巻く情勢や農村地域との関わり、小水力発電の将来等について活発な意見が交わされ、今後、小水力発電を普及推進、取り組んでいくためには次のような課題を乗り越えなければならないことが浮き彫りとなりました。



コーディネーターを務めた
NHKアナウンサーの国井雅比古氏

- ① 水路等において通年水量が確保されていること
- ② 水利権・河川法・電気事業法など諸手続きが煩雑であること
- ③ 発電効率は良いが設備投資額が大きいこと
- ④ 太陽光とは異なり小規模法人、個人は不可であること

■ おわりに

自然の原理を利用した水力発電は明治20年代を起源に現在に至るまでの110年余りの間、我が国のエネルギー供給源として重要な役割を果たしてきました。しかし、明治から昭和初期にかけて国内全体の約3分の2を占めていた水力発電が戦後の高度成長期に突入すると約8割が化石燃料を利用した火力発電へと変化しました。



元気くん2号を見学するサミット参加者

こうした中、昭和38年に完成した日本でも最大級の規模を誇るアーチ式ダムの水力発電所が、かの有名な「黒四(くろよん)」です。黒部ダムの10km下流、地下200mに位置し、正式には「黒部川第四発電所」と呼ばれ現在もお稼働し続けています。

自然エネルギー発電から化石燃料発電に移り変わってから約半世紀、排出されるCO₂は地球温暖化という地球規模の環境問題へと発展してしまいました。地球環境を悪化させた人類が今後どのように繁栄していくか…私たち人類に課せられた課題として真剣に受け止めなくてはならないと感じました。

幸いにも我が国には先人達が築いてきた確固たる足跡が残されており、そこに現代の高い技術が備わればまさに「温故知新」といえます。

今回、第1回の小水力発電サミットが開催された都留市は、昔から水に恵まれた土地柄であり、小水力発電が産業に活かされてきたという歴史がありますが、現在都留市で生活する住民の多くが昔見た水車の風景を町のシンボルとして甦らせたいという強い熱意が小水力発電という概念を越え実現を可能にした最大の要因だと思いました。

環境対策?小水力発電を普及させる?…堅苦しいことは考えず昔見た素晴らしい景色や地域の特性を後世にも伝えたい…。そういう気持ちこそが環境問題を解決に導くキーであると感じました。

「泉幹線用水路更新事業推進協議会」の設立

～手賀沼地域の潤いある農村空間のために～

千葉県東葛飾農林振興センター

設立 総会

平成22年10月22日、千葉県手賀沼土地改良区において秋山柏市長及び横山白井市長が出席のもと、「泉幹線用水路更新事業推進協議会」の設立総会が開催されました。

はじめに阿曽理事長の設立発起人挨拶があり、手賀沼地域の土地改良事業の経過を含め、泉幹線用水路更新事業の早期着手を強く述べ、次に柏市長、木林耕地課長の来賓挨拶を戴いたあと議事に入りました。上程された推進協議会設立趣旨、規約(案)、事業計画(案)は承認され、泉幹線用水路更新事業推進協議会が発足しました。

本協議会では、今後地元説明会の開催、事業計画の策定を進め、平成27年度の事業着手を目指しています。



経過

手賀沼地域は戦後の干拓事業に始まり、現在に至るまで多くの土地改良事業が行われ、優良な農地が広がる豊かな田園風景を提供しています。また、整備された堤防の散策、サイクリングなどを通して多くの人に親しまれている場所です。

しかしながら、用水路や排水機場などの基幹水利施設の中には老朽化による突発的な重大事故も発生し、この地域の農業や生活環境を守るため、基幹水利施設の更新は「待ったなし」の緊急の課題となっています。

柏市及び白井市に展開する沼南側の約900ヘクタールの水田受益地の用水施設である泉揚水機場及び泉幹線用水路は造成後40年を経過し、施設の老朽化により維持管理の負担が増大する中で、地域の農業や環境を守るため、早急な更新事業化が必要となっています。



更新が予定されている施設



地元説明会(ワークショップ)

この地域の農業は、首都圏にあつて重要な位置を占めており、今後集落営農など生産性の高い農業を指向していることに加えて、耕作放棄地発生の防止、食料自給率の向上の観点からも更新事業の早期実現に向け、土地改良区、関係自治体等の意見を踏まえ、「泉幹線用水路更新事業推進協議会」が設立されました。

第16回

美しい農村環境 写真コンテスト

表彰式の開催

水土里ネット千葉
管理指導部

夏号でお知らせしましたが、「誰もが住んでみたい美しい農村環境」をテーマに実施しております第16回写真コンテストの入選作品を、千葉市中央区中央にありますQiball(きぼーる)アトリウムに8月25日(水)～26日(木)の2日間展示しました。本施設を利用された方や夏休み中の子供たちなど、多くの方に見ていただくことができました。「懐かしい景色ですね。」「私も生まれ故郷は農家なんですよ。」など、見ていただいた方からの感想を聞くことができました。



また、25日13時30分より表彰式を執り行いましたので報告させていただきます。



最優秀賞(知事賞)の表彰



作品の講評を鏑山氏に
していただきました



受賞者の皆様と鏑山氏(前列)

第17回写真コンテストも開催しますので、たくさんの応募をお待ちしております。農村の動き(農作業や景観を守る活動など)や農村風景など、1年を通して撮影し応募していただければと思います。

詳しくは、開催案内のチラシをご覧ください。

第16回

美しい農村環境



最優秀賞(千葉県知事賞)

「仲よし友達」

撮影場所:君津市小櫃 撮影者:三沢貞夫

刈り取られたばかりの稲穂の上ではしゃぐ子供たちのケラケラと爆笑する声が伝わってくる。自然であどけない一人一人の異なる表情を見事なシャッターチャンスで捉えている。収穫されたフィールドに“農の天使”が舞い降りて、可憐な子供たちの演出による象徴的な“収穫のお祭り”のようでもあり、農への祝福の光景とも言えるだろう。思わず誰もが共感する作品に仕立て上げた秀作である。



千葉県土連会長賞

「白鳥がやってきた」

撮影場所:香取郡東庄町 撮影者:小阪欽哉

この冬、北国地方は降雪に見舞われ、越冬のため飛来した白鳥たちも難儀を強いられたようだ。自在に飛ぶことのできる渡り鳥は、越冬に適した場所を捜し求めて飛来する。その条件は安全で食が満たされる所である。里に隣接した田園で、親子と並んだ群れの不思議とも見える表情に緊張感もあり、全体の調和が美しい。画面の色調が厳冬を思わせる的確な描写で、人と自然の調和を完成度の高い作品に仕上げている。



特別賞【千葉県農村振興技術連盟賞】

「オダかけの頃」

撮影場所:鴨川市大山千枚田 撮影者:高野春男

収穫され、束ねられた稲穂が竹で組まれたオダに掛けられる光景。夫々の地方で、代々伝えられてきた昔ながらの“天日干し”の技法でもある。カメラのアングルが絶妙で奥行き感のある画面を構成していて、黙々と作業を進める老夫婦の後姿が画像を引き締めている。作者はいつまでも、この風景が続くようにとの願いをこめていて、訴追力のある内容に描写している。



特別賞【農地・水・環境保全向上対策賞】

「体験」

撮影場所:睦沢町今堰ため池 撮影者:高橋幸一

水路のような水溜まりで水生昆虫か水生植物の調査風景だろうか。子供たちの自然で熱心な仕事と、それを見守る親たちの自然が良く表現されている。フィルムを使った作品だけに色調に重圧感がある。手前の少年の足下近くまでフレームすると、画面の印象がもっと強くなった。

写真コンテスト

特別審査員

鏑山英次氏
(日本写真協会理事)

(撮影者:敬称略)



金賞

「作付け前」

撮影場所:香取市 撮影者:西宮 明

鮮やかなコントラストで描写された農の風景は極めてシンメトリーで、画面に緊張感が漂い、遠近感が誇張されたダイナミック光景に仕立て上げた秀作。全体を幾何学的な構図に収め、現代の美しい農の風景を的確な手法で描き出し、背景の処理も見事である。
これから始まる“さつま芋”が植え付けられる畝が、まるで生命体のようだ。

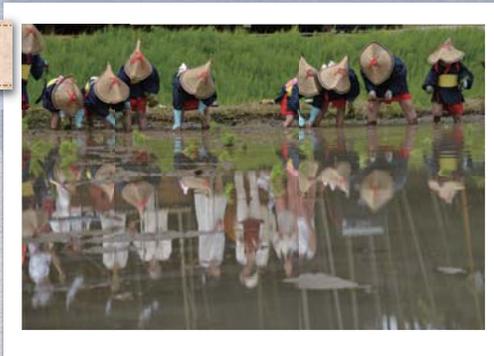


銀賞

「霧の中」

撮影場所:八街市 撮影者:三浦 務

深い霧に包まれた静寂な朝の光景。晩秋の畑作の細道を散策する女性が通り過ぎていく。
静と動との緊張した空気感の描写が巧みで、近景に取り入れたポッチと背景にかすかに浮かぶ森が見事に活写されている。



「御田植祭」

撮影場所:館山市稲 撮影者:安藤十三男

アングルが新鮮で、とてもユニークなフレームです。被写界深度を深めて、水面に映える背後で応援する音楽ライブのメンバーの状態を、もう少し鮮明に描写して欲しい。
早乙女たちの並ぶ菅笠が五線譜の音符のようで印象的だ。

銅賞



「兄妹」

撮影場所:香取市山田橋公園付近
撮影者:田村雅彦

作者はこのフィールドの中で、幼少の頃の故郷での思い出を重ねているようだ。題名を「兄妹」とするのなら、幼い二人に焦点を合わせて上部の鯉職群は縦にした方が効果的だ。



「春の息吹き」

撮影場所:山武市
撮影者:牛込金次

早朝の柔らかい光の中で、競い合うような土筆の描写が素晴らしい。自然河川が用水路か不明ですが、緩やかに曲がる水路と光線を巧みに利用した秀作。早春の息吹に共感です。



「木漏れ日」

撮影場所:佐倉市
撮影者:飯塚正治

畑作のフィールドに晩秋の柔らかい朝の光線が差し込み始めた一時。ポジションをもう少し左に移動した方が、ポッチのシルエットが影を落として効果的でしょう。

佳 作



「都市へと続く
大地のめぐみ」
マチ

撮影場所：市原市藤井4丁目
撮影者：篠原次雄

改良された大きな水田が近代的な機械で収穫され、後方に都市が控えている。変貌する時代を意識した描写が良い。



「家総出」

撮影場所：木更津市矢那
撮影者：伊藤洋子

田植えの体験イベントに参加した一家のスナップ。母親に背負われた幼児の表情を巧みに描写している。



「帰り道」

撮影場所：大網白里町 撮影者：上出善治
農道と農家と田植えが始まったばかりの風景をフレームして、家路につく一家の描写が巧みに纏められている。



「騎馬戦開始」

撮影場所：四街道市 撮影者：越川征雄

見物する人達は冬の着物を着用していて、泥にまみれた裸の男たちのコントラストと左の騎馬団の表情が良く描写されている。



「縄編み体験」

撮影場所：印旛郡栄町 撮影者：亀谷修子

初体験の裏で縄を編む作業に挑戦する子供たちの表情を捉えている。ローアングルで、あどけない仕事がよく描写されている。



「楽しい田植え」

撮影場所：旭市 撮影者：嶋田 洋

初めて体験する田植えの作業。カスリにたすき掛けでの、あどけない表情が良く捉えられ、遠近描写の画面の構成も優れている。



「田園光景」

撮影場所：旭市 撮影者：西宮 明

大胆な画面構成で、稲藁を機械で丸め、家畜の飼料作り光景。操縦者の顔が小さく写り込んでいるのが興味深い。



「トラクターの響」

撮影場所：我孫子市 撮影者：金親俊夫

トラクターが音を響かせながら、桜の開花を合図のように田植えの準備が始まっている光景。



「上総掘り体験」

撮影場所…八千代市新川
撮影者…亀合 宏

上総台地の地形に即して水を得るため伝承された“上総掘り”の体験風景。水は貴重なものであることが実感できる。複雑な画面なのでアングルを変えて、単純にしたい。



「夏は来ぬ」

撮影場所：八街市
撮影者：牛込金次

黄金色の麦畑。後方に西瓜のハウスや落花生の畝筋が控えていて、空は夏の到来を告げている。スケールの大きな風土写真となっている。



「芽吹きの中の田植え」

撮影場所：夷隅郡大多喜町久我原
撮影者：高橋紀三郎

田植え間近の水田に映える赤、青、白の農家の屋根の色。見渡せば辺りは色彩豊かな芽吹き季節。一句が浮かぶ光景です。



「水仙と棚田」

撮影場所：安房郡鋸南町上佐久間
撮影者：丸山 豊

農地の基盤整備で大きな棚田に変貌した地域。手入れした畦地に水仙が咲き乱れている新しい農地の光景。



「田植えの家族」

撮影場所：鴨川市大山千枚田
撮影者：高野春男

千枚田での田植えのスナップ。手伝う子供、とりわけ少年の表情が明るい。



「お田植祭り」

撮影場所：館山市稲 撮影者：瀧口和男

“揃った揃ったよー早苗が揃ったー”(「田植えの歌」詩・井上 赴、曲・中山晋平)昔の歌にあるように豊年が約束されるだろう。明るく、あどけない表情が活写されている。



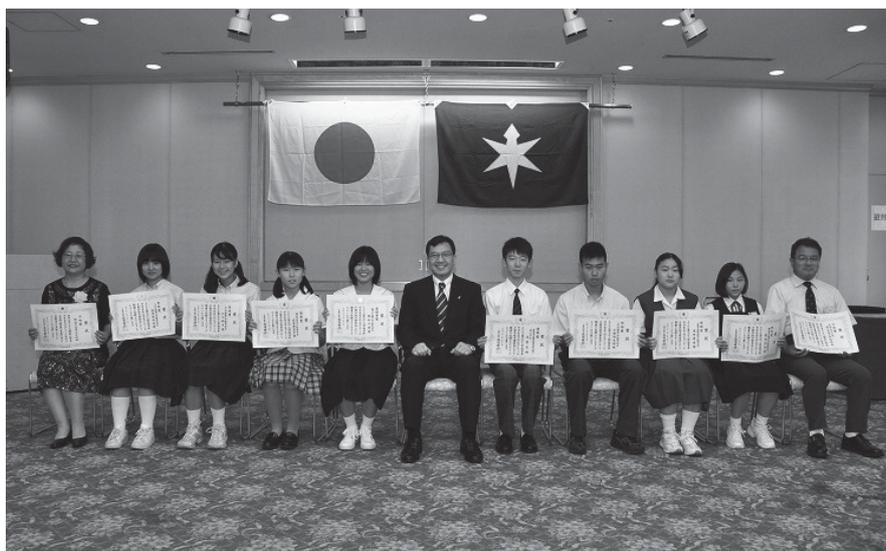
「ヒマワリ畑で歌おう」

撮影場所：君津市
撮影者：大場史恵

夏雲が湧き、ヒマワリが咲き誇る炎天下の畑中で、合唱する若者の声が暑さを忘れて心地よい。

「水の週間」 中学生 水の作文 コンクール入賞作品

千葉県総合企画部 水政課



「水の日」(8月1日)及び「水の週間」(8月1日～7日)は、水の貴重さや水資源開発の重要性について国民の関心と理解を深めるため、昭和52年に閣議了解で制定され、毎年この期間に水に関する各種の啓発行事が全国的に行われています。その一環として、国及び都道府県の共催により、次代を担う中学生を対象として「水について考える」をテーマに「全日本中学生水の作文コンクール」が実施されており、今年で32回目となります。

千葉県は広い県土と豊かな自然に恵まれているものの、県内河川の流れは短く、流域面積も小さいことなどから、水資源に関しては決して恵まれているとは言えません。このため、必要な水の約3分の2を利根川に依存しており、さらに利根川上流ダムの完成にはまだ時間を要するため、十分な水が安定的に確保されているとは言えない状況です。

そこで県では、利根川上流の水源地域の方々の理解や協力をいただきながら、水資源施設の建設を促進し、安定的な水の確保を図るとともに、雨水や汚水処理水の再利用等、水を大切にする節水型社会を目指しているところです。

今回のコンクールには、水道水、工業用水、農業用水など、水への理解、関心がある中学生からの意見が多数寄せられ、県内の中学校11校から総数790編の応募がありました。

その中から、特に優れた作品8編を千葉県地方審査会により選定し、去る8月3日に表彰式を行いました。

ここに、最優秀賞及び優秀賞の作品3編を、原文のまま御紹介します。

なお、この作品3編は、国の中央審査会においても入選されました。

最優秀賞

世界を旅する水

鴨川市立鴨川中学校 2年
鈴木 千尋



水は世界をめぐる。川を流れる水は海に辿り着き、太陽の熱で蒸発して雲になります。雲はシロナガスクジラ二頭分もの重さになって空を旅します。そして、赤道の近くの国に行くと雨になって、北の国に行くと雪になって、再び地上に戻ってきます。

水は地下にしみたり、川になったりして、また循環の輪は続いていきます。

今、水道の蛇口をひねってコップに汲んだ一杯の水は、暑いサバンナでゾウが水浴びをした泥水だったのかもしれないし、氷源でホッキョクグマの背中に降った雪だったのかもしれない。いいえ、ザトウクジラが息をしようと潮を吹いた時に空に舞い上がった水の粒だったのかも…。

世界中を旅して私の元にやってきた水。その水を飲む時、私はロマンを感じずにはられません。

このように世界をめぐる水は私たちの生活に便利に使うために、日本では水道が普及しています。

日本の水道普及率は97%以上にもなり、その水源の70%は河川や湖沼から、30%は地下水等に頼っています。しかし、現代、その河川の汚染が問題となっています。それも私たちの家庭からの生活排水によって。

私はシャンプーで髪を洗います。服は洗剤で洗います。使った食器も台所用洗剤できれいにします。マヨネーズやしょう油を料理に使うし、お米のとぎ汁は排水口に流してしまいます。これらが生活排水です。一日につき一人あたり200L以上の量です。

川には自浄能力といって、自ら水をきれいにする力がありますが、毎日、家庭からでる多量の生活排水を、もし川に流してしまったら、川は水をきれいにする事ができるでしょうか。

一回髪を洗う時に、シャンプーを6ml使います。これを魚が住めるようにきれいにするには風呂の水(300L)で1.6杯(480L)が必要。米のとぎ汁(750ml)は風呂0.9杯(270L)。飲み残した牛乳(180ml)は、なんと風呂の水13杯(3900L)もの水がなければ魚は生きていけないのです。

下水処理場を通せば、生活排水はきれいにされてから川や海に流されます。でも下水道の普及は上水道より進んでいません。人口の少ない市町村では44%程という所もあります。

私たちの水を支える河川は私たちの生活排水によって汚されているのです。

では、どうしたら水の汚れを減らせるのでしょうか。

料理を食べたあとの皿に、油やマヨネーズがついています。水で流す前に、捨てる紙でちょっと汚れを拭き取ります。シャンプーは使いすぎないようにします。洗濯洗剤はちゃんと分量を量って使います。お米のとぎ汁は草花の水やりに使うといい肥料になるそうです。風呂の残り湯も洗濯に再利用できるし、花の水やりにも使えるでしょう。もちろん、ジュースや牛乳などは飲む分だけコップについて飲み残しのないようにします。

アフリカのことわざに『たくさんの小さな子どもたちが、たくさんの小さな村で、たくさんの小さなことをしたら、世界はかわるだろう。』というのがあるそうです。

私たちにできる事は、簡単で小さな行動です。でも多くの人が行動に移してくれたら、それは大きな結果をだすのではないのでしょうか。

その結果はめぐる水と共に世界に広がり、多くの命を支えることになっていくのです。

世界を旅する水。命の水。私の元から旅立つ水は、できるだけきれいなまま、多くの命とふれ合う旅をすることでしょう。

優 秀 賞

もしも水道が無かったら

東海大学附属浦安高等学校中等部 1年

今 貴志



「何これ、どうしちゃったんだろう」

今年の春休みの夕方、一階の洗面台の方から母の大きな声が聞こえてきた。しばらくすると、ばたばた動き回っていた母が三年前に洗面台をリフォームした時の業者と電話で話し始めた。どうやら洗面台から水が漏れて水浸しになったらしい。

業者が来るまでの二時間の間「あ、そうだ、ここは使えないんだ」と二階の洗面台に行くのがとても面倒に感じた。

修理が終わる頃、母から呼ばれて洗面台に行った。僕が熱帯魚の飼育で水槽で使うゴムの吸盤があった。透き通っているはずのゴムは、茶色に変色していてぶよぶよになっていた。水漏れの原因は、吸盤が配管に詰まり、無理な圧力がかかって破損してしまったらしい。ショックだった。

水道は便利だ。朝、僕は起きるとまずトイレで水を使い初める。歯みがき、洗顔、洗濯、料理、入浴など生活で使うきれいな水が僕の住む日本では蛇口から当たり前のように出てくる。僕達は一日に二百五十リットルの水を使っていると聞いたことがある。もし家に水道が無かったら、どうやって水を手に入れたらいいのだろう。僕の家から一番近くで十分ぐらいで行ける川がある。海の近くで汽水だ。飲める水ではないし、生活用水にも使えない。もし使えるとしても、二百五十リットルの水を毎日確保するとしたら水運びに時間もかかり、学校に通って先生や友達とも会えなくなる。考えるだけでも「そんなの嫌だな」と思った。

でも、僕はそういう映像を見たことがある。ルワンダ共和国の少女が素足にサンダルで水桶を運んでいた映像だ。ルワンダは丘陵地が多く、そこに住む人々は、生活用水の水源を谷間にある湧水、湖や沼、河川に依存していて、高低差百メートル以上の急な坂道を上り下りをして水を運搬しているそうだ。そして利用している水源は細菌に汚染されているという。それでも生活に必要な水を、ルワンダの人々は、毎日時間をかけて運ぶそうだ。少女の映像を思い出すと「ルワンダにも日本のような水道ができればいいのにな」と何度も考えてしまう。

僕は、毎日使っている「水道」のことが気になって調べることにした。「水道」は、生活のために水を供給・処理する事業・施設のことで、上水道、中水道、下水道、簡易水道、工業用水道に大別される。一般的には上水道を指して水道と呼ぶことが多い。日本では、室町時代の後期に小田原上水が建設されていたことがわかりとても驚いた。江戸時代には神田上水や玉川上水を始め全国に水道が建設され、明治時代には西洋の近代的水道が導入された。各地でダム建設など、水の確保がされた。浄水場では、ろ過や沈殿凝集、消毒などの処理が行われ、水質が保たれている。この水が蛇口をひねると出てくる。こうして調べてみると、「便利で安全な水道が無くなったら困るな」とやっぱり思う。

この数日、学校から帰ると水に関することをたくさん考えた。限りある大切な水をこのまま使い続けるにはどうしたら良いか考えた。自分で今日からできる節水、ダムや浄水場の仕組み、河川を汚さないこと、森林伐採のこと、海水を利用する研究など、水のことを意識して過ごした。でも本当に大切なのは、この数日だけではなく、普段から意識して生活することだ、と思った。

優 秀 賞

大切な美味しい水

昭和学院中学校 1年
萩原 聖名子



いつも当たり前で飲んでいる水。母が調理や片づけに使う水。家族がトイレや洗面、お風呂で毎日使う水。学校でも使う水。そのような普段何げなく使っている水について真剣に考えたことはありませんでした。

また、私が知っていた水は、生活面で使うものばかりでした。しかし色々調べてみると、原料用、製品処理用、ボイラー用、温度調節用など広い範囲にわたって使用される「工業用水」と稲作、野菜、果樹などの生育に使われたり牛、豚、鶏などの家畜に使われる「農業用水」などがあることを知りました。しかも農業用水は平成十八年度の統計で年間五百四十七億立方メートルとその使用量もぼう大なものです。

生活用水も家庭で使う家庭用水と学校、会社、病院、デパート、ホテルなど都市活動用として一人当り一日で三百七リットルも使用していることが分かりました。

私たち世代が水について考える事が少ないのは、水が不足して困る事がほとんどなく、安心安全な水の飲める国に生まれたからだと思います。

数年前、海外に行った時に水道水が飲みにくい事がありました。そこで水道水が美味しく飲める国や都市を調べてみると、日本、バンクーバー、ホノルル、サンフランシスコ、デトロイト、アトランタ、ヘルシンキ、ストックホルム、コペンハーゲン、ウィーンの十一都市しかなく、世界の八割が美味しい水道水を飲めないと分かりました。主な理由は、硬質や軟質であったり、水に匂いがある。放射能がふくまれている。土壤が汚染されている。バクテリアが多い。などです。

日本の水道普及は九十七パーセントを超えています。しかし、世界では飲用可能な水の恩恵を受けていない人々が約十一億人いると言われていています。これは地球上全人口の5.5人に一人に相当します。また、日本は必要なダムや治水技術の高さにより水害が少ない国とも言えます。

太陽エネルギーを主因として起きる水の循環は地球における継続的なものですが、安全な飲み水に変える浄水技術も日本の水について語る時、大きなポイントと言えます。

様々な場面でメディアが伝える水の災害や飲み水の不足、不衛生な水に起因する病気など今でも世界で問題が沢山あり、日本の高い技術が活かさればと考えます。飲み水に困っている国の事を考えると安全な浄水システムの普及活動の大切さも感じます。

水について考える時、まず私達がすぐできる事から始めたいのは、家庭や学校での「水の大切さ」をその使う場所で文字やポスターで明記し、節水する習慣を皆でつけること。今まで以上に川や海を汚さない意識を持つ事。生活用水の量や洗剤の使い方の工夫も一人一人の積み重ねで大きな輪になっていくと思います。

私は今回、「水について考える」というテーマの中で色々な事を調べ考えました。今まで全く知らなかった場所で水が活用されている事を学び、改めて水の大切さを認識しました。

両総土地改良区

山武郡東部土地改良区

統合整備推進協議会を設立

千葉県山武農林振興センター 指導管理課

合併へ向け一歩、前へ

平成22年10月8日、午後2時から山武農林振興センター大会議室において、『両総土地改良区・山武郡東部土地改良区統合整備推進協議会設立総会』が開催されました。

山武郡東部土地改良区は両総用水を使用しており、組合員は両方の土地改良区に賦課金を支払う、という二重組織になっていました。

この解消に向け、昭和50年代から両土地改良区の間で協議が行われていました。

二重組織の解消は両土地改良区の悲願であり、長年の懸案事項でしたが、このたび合併協議を具体的に進めていくことに合意し、千葉県山武農林振興センターを事務局として統合整備推進協議会を設立することができました。

農業情勢が厳しい中、改良区運営をスリム化し、組合員の負担軽減を図ることはきわめて重要になっており、23年度中の正式合併の合意をめざし、今後、具体的な課題

の協議を進めていきます。

協議会は農林振興センター所長を会長に、両土地改良区の理事長、関係市町（横芝光町、山武市、両総土地改良区の所在地である東金市）の首長、および千葉県土連会長を委員に、山武郡市土地改良協会長、農村振興課土地改良団体室長を参与として迎えることが確認されました。

具体的な検討課題は幹事会で詳細に協議していくこととし、さらに、国・

県の補助金（土地改良区組織運営基盤強化対策事業）を利用して、「統合整備計画（概要）」を年度末までに策定することとします。



両総土地改良区	： 昭和27年設立	受益面積17,663ha	組合員21,343名
山武郡東部土地改良区	： 昭和26年設立	受益面積 1,997ha	組合員 2,406名

米粉の普及に向けて

勝浦市土地改良区 元吉里美

「ちば水土里ネット女性の会」は設立されて3年目を迎え、これまで色々な研修会が開催されました。日々、目の前の仕事をこなすことで精一杯の中で、女性の会の研修会は、視野を広げ刺激となり会員の方と交流することでリフレッシュし、新たな気持ちで仕事に取り組むことができ、実り多い研修会となっており、参加させていただけることに感謝しております。

22年度事業計画の中で、女性の会として「米粉の普及活動を推進しては」との意見がありましたので、勝浦市において10月17日に開催されるイベント「コスモスフェスタin勝浦」での米粉推進の提案をさせていただきました。また、タイミングよく勝浦地域耕作放棄地対策協議会において、耕作放棄地を再生した水田で作られたお米を米粉にし配布することを知り、そこに一緒に参加させていただくことにしました。

そんな中、事務局で前記の「コスモスフェスタ」に参加するのであれば勝浦市近郊の会員に協力してもらうためにも、一度米粉を使った料理講習会を勝浦で開催してみてもどうかという企画を準備していることを知り、内心、千葉県南房総という位置から、参加者がいるのか心配していましたが、9月22日に開催した講習会には15名の会員の方が勝浦まで足を運んでくださり、交流を深められたことに改めて感謝いたします。

この講習会では、千葉県夷隅農林振興センター地域振興部改良普及課 上席普及指導員の片岡幸子氏を講師にお招きし、米粉の種類や用途、特徴などについての説明をしていただき、米粉は粉の細かさによって味や食感が違うということから千葉県産の2種類の米粉で、どこの家庭にもある調理器具を使い、さつま芋ケーキ(炊飯器)・卵蒸しケーキ(蒸し器)・米粉シチュー(お鍋)・和風お好み焼き(フライパン)の4品を作り比較してみることにしました。

目の前に海の広がる調理室にて、早速料理の開始です。料理においては、皆さんベテランとあり、日頃の腕前を発揮し、手際よく米粉料理を作り上げ、いよいよ試食です。



ケーキ類では、微細粒の方が若干ふわふわ感、しっとり感がありました。お好み焼きでは、どちらも、もちもちとした新しい食感が楽しめ、シチューではとろみを簡単につけることができ、滑らかで4品ともそれぞれおいしく、お米を使っているからでしょうか、どこか懐かしい味がして満腹となりました。



そして9月22日の講習会での料理を基にレシピを作成し、「コスモスフェスタin勝浦」で配布することになりました。

10月17日(日)秋空の下で開催された勝浦市のイベント「コスモス



フェスタin勝浦」には「ちば水土里ネット女性の会」会員の中から5名の参加をいただき、勝浦産米粉とその米粉を使ったパン、そしてレシピを配

布しました。米粉について関心をもっている方も多く、とても好評で、来場した多くの皆さんに試食していただくために時間を区切って配り、盛況な内に終わることができました。



多くの方々に米粉を使っただき、身近な米、地産の米に目を向けて、新たな需要である米粉の需給に繋げていけたらと思います。



追伸 米粉を使った料理は小麦粉を使った料理よりカロリーを抑えられ、ヘルシーな上、もちもちとした新しい食感が味わえます。皆様も米粉を使った料理に挑戦してみてくださいいかがでしょうか。

最後に女性の会の活動に際し、事務局始め、関係者の方々のご協力、ご指導を賜り心より御礼申し上げます。また、職場でのご理解、ご協力により活動できることを心より感謝するとともに、これからも女性の会の観点を磨き、活動に参加させていただきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

「米粉」ってなあ～に??

「米粉」とは…
「米粉」とは文字どおりお米を粉末にしたものです。最新の製粉技術の向上により、従来から和菓子等に用いられてきた、新粉より粒の細かい、小麦粉と同等程度の大きさ（微細粉）の粉がはけるようになりました。今般粉分の米粉は、パンやケーキなど小麦粉を原料としていた品に使われるようになってきています。

米粉ってずばらしい!!

- 1 もちもち、しっとり・くせに食感
米粉パンや麺はもちもち、ケーキはしっとりとした食感が特徴です。
- 2 油を減らしてヘルシー
米粉は小麦粉に比べて油を減らしていくのでヘルシーです。
- 3 いろいろなものに使える
製粉技術の向上により和菓子だけでなくパンやケーキ、麺などいろいろなものに使えます。
- 4 ダマになりにくい
ダマになりにくいので、ホウイソソも混ぜるだけで簡単にできます。
- 5 千歳千歳の推進
「ちばのお米」でつくった米粉や米粉パンなどは千歳千歳の推進にも役立ちます。
フードマイレージが低いので環境にも優しい。
- 6 食糧自給率向上の推進
米粉100gを1個食べると食糧自給率が5%向上するとされています。

※フードマイレージ：「フードマイレージ」とは、輸入食料の輸送量に産地距離をかけた数値化したものです。食べ物の移動距離が長ければ長いほど、消費エネルギーと排出されるCO₂は増加します。

～レシピの紹介～

米粉を使ったレシピをご紹介します。

米粉を使ったパン

材料	分量
米粉	100g
小麦粉	100g
砂糖	50g
卵	1個
バター	50g
酵母	5g
水	適量

米粉を使った麺

材料	分量
米粉	100g
小麦粉	100g
水	適量

米粉を使ったデザート

材料	分量
米粉	100g
砂糖	50g
卵	1個
バター	50g
水	適量

※レシピはあくまで参考です。お好みで調整してください。

千葉県米消費拡大推進協議会発行の「米粉レシピ集」より抜粋

第17回

美しい農村環境

写真コンテスト

募集中

テーマ

誰もが住んでみたい
美しい農村環境

あなたが見つけた美しい
農村環境を教えてください



第16回
最優秀賞
(千葉県知事賞)



第16回
千葉県土連
会長賞



第16回
千葉県
農村振興技術
連盟賞



第16回
農地・水・環境
保全向上
対策賞

各賞

- 最優秀賞(千葉県知事賞) … 1点(賞状・副賞)
- 千葉県土連会長賞…………… 1点(賞状・副賞)
- 特別賞 2点(賞状・副賞) ■銅賞 3点(賞状・副賞)
- 金賞 1点(賞状・副賞) ■佳作 数点(賞状・副賞)
- 銀賞 2点(賞状・副賞) ■参加賞 応募者全員に粗品進呈

応募締切

平成23年6月30日(当日消印有効)
 [応募先] 〒261-0002 千葉市美浜区新港249-5
 水土里ネット千葉(千葉県土地改良事業団体連合会)
 管理指導部 TEL 043-241-6639

※注意事項

- ・複数の作品を応募する際には、それぞれの作品に汚れ傷が付かないように十分注意して封筒等に入れ、送付して下さい。
- ・応募作品は原則として返却いたしません。返却を希望する場合は、送料相当分の切手と返信用の封筒を同封して下さい。
- ・応募作品の取扱いは十分注意いたしますが、汚れ、破損等、万一の事故に対する責任は負いかねますので、ご了承下さい。

応募要領

- 応募資格 千葉県内在住または在勤の方
- 応募規定
 - 千葉県内で撮影したもの
 - 応募作品について
 - ・カラー写真の単写真に限ります。
 - ・応募は未発表のもので1人3作品までとします。
 - ・写真サイズは四ツ切り(ワイド可)とします。
 - ・デジタルカメラで撮影した作品の場合は、撮影したままのもので、加工・調整した作品は応募できません。
 - ・人物が被写体の場合は、応募者の責任により肖像権に触れないようにして下さい。
 - ・応募の際は応募票に記入し、応募作品の裏に貼り付けて下さい。(コピー可)
 - 入賞作品について
 - ・入賞作品は1人1点までとします。(佳作はこれに限りません)
 - ・入賞作品の著作権は撮影者に帰属しますが、展示会や広報などのためのポスター・チラシ・ホームページ等の使用权は主催者に帰属します。
 - ・入賞作品は原版を後日提出してもらいます。(デジタルカメラの場合はオリジナルデータをCD-R等にコピーしたもの)

入選作品でカレンダーの
作成を計画しています。
たくさんのご応募
お待ちしております。

水土里ネットちば 289号 (平成22年11月10日発行)



発行

水土里ネット千葉(千葉県土地改良事業団体連合会)
 〒261-0002 千葉市美浜区新港249番地5
 TEL.043-241-1711(代)/FAX.043-248-2563(代)

印刷

株式会社ニッセイアド
 〒264-0026 千葉市若葉区西都賀4-18-3
 TEL.043-206-7752/FAX.043-206-7753